

ニュース

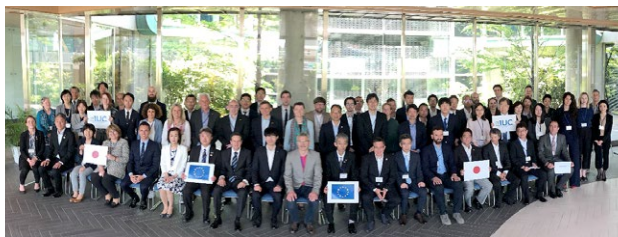
EU国際都市間協力プログラム、日欧18都市による第4回東京会合を開催

EU・日本国際都市間協力プログラム(IUC: International Urban Cooperation)では、5月17日(金)、駐日欧州連合代表部(東京)において、第4回都市間交流会合を開催しました。日欧9ペア18都市の代表と関係者約90名が一堂に会し、それぞれの取り組み状況と今後の展望を報告しました。

2017年から交流を始めた5つのペアは、相互に訪問してスタディツアーを実施した結果を踏まえ、共通課題をより具体化し、アクションプランの作成を進めていることを報告しました。成果は、今後、IUCのウェブサイトのプラットフォームで共有していきます。

2期目の3つのペアの都市は、2018年秋に欧州の都市でスタディツアーを実施しており、今回はこの会議の前後で欧州側の都市を迎え日本でのスタディツアーを実施しています。ウメオ市(スウェーデン)は鎌倉市を訪問、FabLab(市民の工房)を訪れたり、市民による地域再生のためのワークショップに参加しました。グルノーブル・アルプス都市圏(フランス)は豊田市を訪問、トヨタ自動車の元町工場や市民による環境教育施設「eco-T」を見学しました。担当者らは、実際に現場を訪れて議論することで理解が深められた、お互いが持つ資源を生かした取り組みを進めていきたい、と話しました。ブラチスラバ市(スロバキア)は所沢市を訪問し、気候変動適応策、都市内の植樹と近郊緑地の保全などについて意見交換と現地視察を行いました。

2019年からは3期目のペアとして、マルセイユ市(フランス)と神戸市が参加します。



第4回EU・日本都市間交流会合の集合写真



鎌倉市でのスタディツアー



豊田市でのスタディツアー

「IUCの活動」に関する詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://iuc.eu/>



教育活動

平成30年度統合環境学特別コース修了証授与式を実施

3月25日(月)、平成30年度統合環境学特別コース修了証授与式が行われました。平成30年度は環境学研究科の日本人の大学院生、松本祥子さん(都市環境学専攻)が、統合環境学特別コースを修了しました。松本さんはこの3月に博士課程も修了され、岡本耕平環境学研究科長より博士号の学位と統合環境学特別コースの修了証が授与されました。

これからのご活躍を期待しています。おめでとうございます。



修了証を受け取る松本さん



修了生と教員での記念撮影

「統合環境学特別コース」の詳細は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/>



平成31年度統合環境学特別コース説明会を実施

平成31年度統合環境学特別コースの臨床環境学研修(On-site Research Training)と基礎環境学講究の説明会を4月12日(金)に開催しました。臨床環境学研修は、「具体的な地域の具体的な環境問題」を対象として、現場での診断・治療・影響評価の繋がりを観察して相互のフィードバックのあり方を提案する、実践的な研究活動で、今年度は長野県木曽町をフィールドとして実施します。また、このコースでは、ORTと並行して基礎環境学講究も開講し、SDGsを大きなテーマとし、ORTを支える共通の基盤となる原理を、領域を越えて体系化していきます。

説明会には、環境学研究科と生命農学研究科の博士後期課程の学生3名(うち留学生1名)とが博士前期課程の学生も2名参加しました。学生たちの専攻は、都市環境学専攻、地球環境学専攻など様々です。

興味を持たれた方は、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/overview.html>



【報告】松阪市で「松阪駅西地区複合施設基本構想」の業務成果報告を行いました。

3月19日(火)に松阪市役所にて、高野教授より駅西ワークショップの内容と成果の報告、事業の基本理念、事業に求める条件(機能)などを整理した「松阪駅西地区複合施設基本構想」の報告を行いました。



市長説明を行う高野教授



市長、副市長と記念撮影

竹上市長からは、「参加された方も若者が多く非常に楽しそうにやっていたという印象が強く、「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画からより具体的に複合施設のイメージが深まったと感じている。そして、この成果を活用してより市民の期待に応えることができるようなものを作り上げていきたい。」など、内容についての感想と今後の意欲についてのお言葉を頂きました。

作成した「松阪駅西地区複合施設基本構想」は松阪市HPにて掲載しております。

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/toshikeikaku/kihonkousou.html>



コンサルティングファームの詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/consulting-firm/>

イベント

【告知】臨床環境学コンサルティングファーム説明・相談会の開催

共発展センターでは、7月10日(水)14:00～17:30に、名古屋大学東山キャンパス・環境総合館1階のレクチャーホールにて、「臨床環境学コンサルティングファーム説明・相談会」を開催します。まず「臨床環境学コンサルティングファーム」が地域・自治体・NPO・企業などで行っている調査研究や活動について、これまでの主な実績を紹介するとともに、その開始までの流れやその後の進め方を説明します。また、学生と教員が半年間、地域に出かけて調査実習を行う「臨床環境学研修」の授業についても紹介します。その後、コンサルティングに携わる教員と直接話ができる相談の場を設け、地域の課題について大学とともに解決策を考えたい方々に、どのような進め方がよいか、どの教員が対応できるかも含め相談できるようにします。もちろん参加費は無料です。コンサルティングや臨床環境学について知っていただき、直接相談もできる機会ですので、ぜひともご参加ください。



興味を持たれた方は、下記のウェブサイトをご覧ください。

http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/consulting-firm/jpn/event/post_9.html

共発展センター研究紹介

香坂玲教授(共発展センター兼任教員・臨床環境学コンサルティングファーム部門)

環境問題に関心を持つようになった原体験の一つに東欧のチェコでの露天掘の炭鉱を学生時代に訪問したことがあります。黒い三角地帯と呼ばれるエリアの街で、共産主義時代に作成された映像では、街の教会を丸ごと持ち上げ、レールに乗せて移動させたことが宣伝をされていた一方で、残りは街ごと爆破し、住民は強制的に団地に移住するという実態を現地の友人が説明してくれました。

そのようなことがきっかけと、当時教鞭をとっていた石弘之先生からの紹介もあって、共産主義から体制転換して間もない隣国のハンガリーにおいて、1997年から中東欧地域環境センターで研修と勤務をしました。ドイツのフライブルク大学では森林分野で博士号を取得しました。本学とも交流があり、深い縁を感じています。その後、カナダの国連環境計画の生物多様性条約に勤務していたところ、当地・愛知県名古屋市内においてCOP10などが開催される見込みとなり、支援実行委員会のアドバイザーなどを経験する貴重な機会に恵まれました。名古屋議定書や2020年までの愛知目標などの合意に居合わせたことは望外の喜びでした。

国際的なプロセスに加え、能登半島、東北エリアの地方創生や生態系サービスに関わる活動に参画して参りました。山菜、養蜂、伝統野菜などの恵みと地理的表示の保護制度、UNESCOエコパークやFAOの世界農業遺産の実情と、食や観光、地域資源の活用など地方自治体の戦略についての研究をして参りました。

今後、兼任教員として共発展センターに参画できることを楽しみにしております。

「Ryo Kohsaka Lab. 香坂玲研究室 International Natural Resource Management」のFacebookもご覧ください。

<https://www.facebook.com/kohsaka.jp/>



編集後記

本号では、学生の修了式と新たな学生に向けたガイダンス、業務の完了と新規業務に向けた活動開始などの記事を掲載しております。また、4月より共発展センターの兼任教員として参画された香坂玲教授の研究紹介を載せております。共発展センターではこれからも、時代とともに緩やかに変化をしていながら、取り組んでまいりたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

名古屋大学



大学院環境学研究科附属
持続的共発展教育研究センター

共発展センター・ニュースレター 編集部

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 事務局

〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 名古屋大学環境総合館421号室

電話/FAX : 052-747-6547 E-mail : cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp